

文教・警察常任委員会 資料  
平成27年(2015年)9月9日(水)  
教育委員会事務局学校教育課

## 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果に係る資料

教育委員会事務局学校教育課

平成27年度全国学力・学習状況調査の概要について

1 実施概要

(1) 実施日 平成27年4月21日(火)

(2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 実施教科

①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ・主として「知識」に関する問題(A問題)
- ・主として「活用」に関する問題(B問題)

※理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 実施学校数 悉皆調査

	全学校数	調査対象児童生徒の在籍する学校数	4月21日に調査を実施した学校数	4月22日以降に調査を実施した学校数
市町立小学校	225	223	223	0
特別支援学校(小学部)	12	4	2	0
市町立中学校	97	96	95	1
県立中学校	3	3	3	0
特別支援学校(中学部)	12	4	4	0
公立学校計	349	330	328	

2 教科に関する調査の実施結果(公立)

○平均正答数(平均正答率)

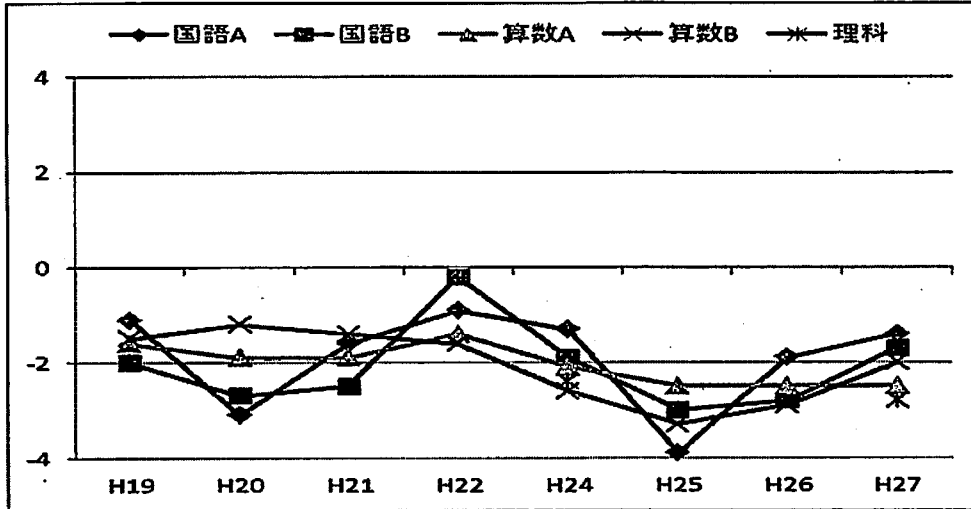
教科等	国語		算数・数学		理科	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」		
小学校	滋賀県	9.6(68.6%)	5.7(63.7%)	11.6(72.7%)	5.6(43.0%)	13.9(58.0%)
	全国	9.8(70.0%)	5.9(65.4%)	12.0(75.2%)	5.9(45.0%)	14.6(60.8%)
中学校	滋賀県	24.4(74.1%)	5.7(63.8%)	23.0(63.8%)	5.9(39.2%)	12.6(50.3%)
	全国	25.0(75.8%)	5.9(65.8%)	23.2(64.4%)	6.2(41.6%)	13.3(53.0%)

(問題数)	小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
		14問	9問	16問	13問	24問
	中学校	国語A 33問	国語B 9問	数学A 36問	数学B 15問	理科 25問

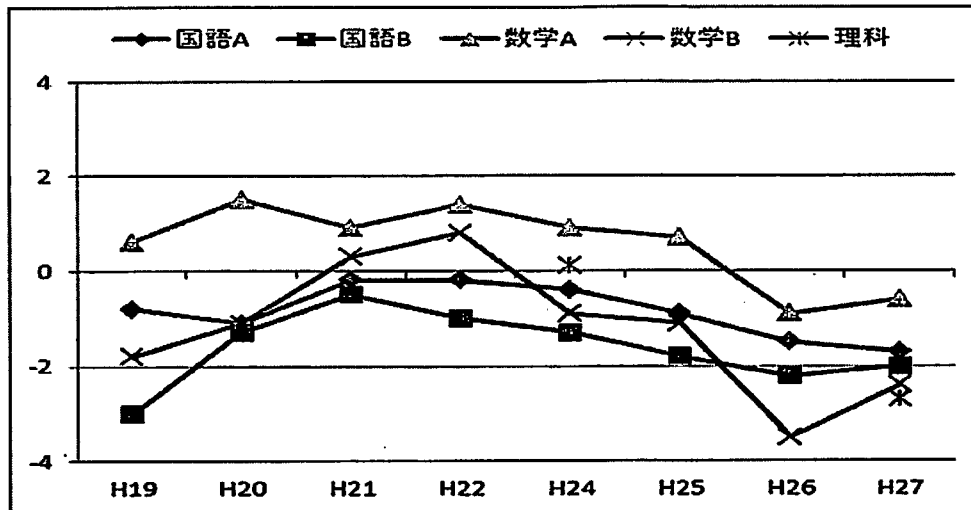
# 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

## ○ 学力の状況〈滋賀県の平均正答率と全国平均の差の推移〉

### 【小学校】



### 【中学校】



※平成 22 年度・24 年度は抽出調査のため誤差±1%程度の精度であり、参考値。

### 結果の概要

本年度の調査結果では、小学校・中学校とも B 問題の全てで改善が見られた。このことは、各学校で言語活動の充実を図り、思考力や判断力、表現力を向上させる授業改善が行われてきた成果ととらえられる。

小学校については、国語の A 問題・B 問題、算数の B 問題について、平成 25 年度から 2 年連続して改善が見られた。特に、国語の A 問題については、2 年間で 2.5 ポイントの大きな改善が見られたが、算数の A 問題では全国平均との差が縮まらなかった。

中学校については、平成 25・26 年度と落ち込みが見られたが、今年度は、国語の A 問題を除き、国語の B 問題、数学の A 問題・B 問題で改善された。

理科については、平成 24 年度以降、3 年ぶり 2 回目の実施だったが、中学校においては、大きく落ち込んだ。

学ぶ力を育むための6つの視点についての指標【全国と滋賀県の比較】

小学校

6つの視点	学習状況の児童生徒への質問項目	H26小学校			H27小学校			滋賀県の 平成26年から 27年の伸び
		滋賀県	全国	全国との差	滋賀県	全国	全国との差	
		A			B			
一人ひとりの学ぶ力を高める	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	294.9	295.4	-0.5	296.7	298.6	-1.9	1.8
	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	255.2	252.4	2.8	255.7	256.0	-0.3	0.5
	将来の夢や目標を持っていますか	350.9	351.5	-0.6	350.1	350.9	-0.8	-0.8
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	362.5	363.8	-1.3	362.4	363.2	-0.8	-0.1
繰り返し努力したことを認め能力 や可能性を引き出す	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	364.1	364.7	-0.6	366.5	366.1	0.4	2.4
	(★4) 自分には、よいところがあると思いますか	306.7	303.7	3	305.6	305.2	0.4	-1.1
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(※2)	203.3	214.5	-11.2	208.8	223.5	-14.7	5.5
	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	308.7	315.4	-6.7	313.3	319.6	-6.3	4.6
生活の中で学ぶ力をつける	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(※1)	275.0	283.4	-8.4	275.7	281.8	-6.1	0.7
	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか	329.2	329.5	-0.3	329.7	328.0	1.7	0.5
	(★6) 学校みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	337.3	339.7	-2.4	333.9	336.2	-2.3	-3.4
	学校の友達とで話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	278.6	281.0	-2.4	281.0	284.4	-3.4	2.4
授業を改善する	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	324.6	329.7	-5.1	334.9	340.1	-5.2	10.3
	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	285.9	298.7	-12.8	296.2	308.0	-11.8	10.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	332.0	338.0	-6	337.9	342.3	-4.4	5.9
	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	348.6	351.3	-2.7	353.6	355.7	-2.1	5.0
放課後や家での時間の使い方を 考える	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	347.1	347.0	0.1	348.7	349.0	-0.3	1.6
	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(※3)	306.5	305.7	0.8	297.7	297.1	0.6	-8.8
	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	272.3	277.2	-4.9	277.2	281.1	-3.9	4.9
	家で、学校の授業の予習をしていますか	234.4	239.7	-5.3	236.4	240.7	-4.3	2.0
県全体で子どもの力を伸ばす	今住んでいる地域の行事に参加していますか	323.2	292.3	30.9	322.3	289.9	32.4	-0.9
	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	270.4	276.6	-6.2	273.1	279.0	-5.9	2.7
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	225.8	235.4	-9.6	230.3	240.4	-10.1	4.5
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	364.4	366.9	-2.5	360.8	364.3	-3.5	-3.6

※質問項目点数の算出方法について 平成27年度全国学力・学習状況調査での児童生徒質問紙調査の質問項目について、「当てはまる」…4点、「どちらかといえば当てはまる」…3点、「どちらかといえば当てはまらない」…2点、「当てはまらない」…1点とし、各回答の割合とこれらの点数をかけて合計したもので算出しています。  
 (※1「読書…」については、30分以上、10～30分、10分未満、全くしないの順に4点、3点、2点、1点とした。 ※2「400字詰め原稿用紙…」については、そう思わない、どちらかといえばそう思わない、どちらかといえばそう思う、そう思うの順に4点、3点、2点、1点とした。 ※3「インターネット…」については、持っていない、30分より少ない、1時間より少ない、1時間以上の順に4点、3点、2点、1点とした。)

★質問項目の変更について 児童生徒質問紙調査について、平成27年度調査と平成26年度調査で質問項目が削除されたものがあるため、平成26年度調査の「友達との約束を守っていますか」の質問を、「学校のみならず協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」(表中★6)に変更しました。また、平成26年度調査の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問を、「自分には、よいところがありますか」(表中★4)に変更しました。

学ぶ力を育むための6つの視点についての指標【全国と滋賀県の比較】

中学校

6つの視点	学習状況の児童生徒への質問項目	H26中学校				H27中学校				滋賀県の平成26年から27年のび					
		滋賀県		全国		滋賀県		全国		B-A	計				
		A				B									
一人ひとりの学ぶ力を高める	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	278.7	1189.1	280.7	1200.5	-4	-11.4	278.9	1191.1	283.1	1204.4	-4.2	-13.3	2.2	2.0
	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	253.1		249.1		4		254		251.2		2.8		0.9	
	将来の夢や目標を持っていますか	298.1		306.2		-8.1		298.4		306.7		-8.3		0.3	
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	361.2		364.5		-3.3		359.8		363.4		-3.6		-1.4	
繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	359.4	1114.8	363.4	1146.4	-4	-31.8	361.3	1125.4	365.3	1158.2	-4	-32.8	1.9	10.6
	(★4) 自分には、よいところがあると思いますか	274.6		281.6		-7		277.6		284.6		-7		3.0	
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(※2)	193.7		206.1		-12.4		200.6		213.9		-13.3		6.9	
	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	287.1		295.3		-8.2		285.9		294.4		-8.5		-1.2	
生活の中で学ぶ力をつける	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(※1)	235.1	1133.1	249.9	1164.2	-14.8	-31.1	233.3	1128.1	247.6	1163.7	-14.3	-35.6	-1.8	-5.0
	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか	307.8		307.9		-0.1		310.2		311		-0.8		2.4	
	(★6) 学校みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	329		336.8		-7.8		321.3		332.7		-11.4		-7.7	
	学校の友達と家で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	261.2		269.6		-8.4		263.3		272.4		-9.1		2.1	
授業を改善する	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	308.9	1144.9	313.8	1188.4	-4.9	-43.5	321.9	1182.0	328.8	1224.7	-6.9	-42.7	13.0	37.1
	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	234.8		256.3		-21.5		249.5		269.4		-19.9		14.7	
	四語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	312		320		-8		317.4		325.1		-7.7		5.4	
	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	289.2		298.3		-9.1		293.2		301.4		-8.2		4.0	
放課後や家で時間の使い方を考える	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	343.1	1011.2	346.1	1022.8	-3	-11.6	342.2	1013.2	346.6	1027.6	-4.4	-14.4	-0.9	2.0
	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(※3)	206.4		214.2		-7.8		202.5		211.1		-8.6		-3.9	
	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	241.2		245.7		-4.5		247.5		250.3		-2.8		6.3	
	家で、学校の授業の予習をしていますか	220.5		216.8		3.7		221		219.6		1.4		0.5	
県全体で子どもの力を伸ばす	今住んでいる地域の行事に参加していますか	256.3	1088.1	231.8	1074.4	24.5	13.7	258	1088.3	235.5	1079.8	22.5	8.5	1.7	0.2
	地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか	255.9		259.2		-3.3		255.1		259.9		-4.8		-0.8	
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	208.1		212.1		-4		210.7		216		-5.3		2.6	
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	367.8		371.3		-3.5		364.5		368.4		-3.9		-3.3	

※質問項目点数の算出方法について 平成27年度全国学力・学習状況調査での児童生徒質問紙調査の質問項目について、「当てはまる」…4点、「どちらかといえば当てはまる」…3点、「どちらかといえば当てはまらない」…2点、「当てはまらない」…1点とし、各回答の割合とこれらの点数をかけて合計したもので算出しています。  
 (※1「読書…」については、30分以上、10～30分、10分未満、全くしないの順に4点、3点、2点、1点とした。 ※2「400字詰め原稿用紙…」については、そう思わない、どちらかといえばそう思わない、どちらかといえばそう思う、そう思うの順に4点、3点、2点、1点とした。 ※3「インターネット…」については、持っていない、30分より少ない、1時間より少ない、1時間以上の順に4点、3点、2点、1点とした。)

★質問項目の変更について 児童生徒質問紙調査について、平成27年度調査と平成26年度調査で質問項目が削除されたものがあるため、平成26年度調査の「友達との約束を守っていますか」の質問を、「学校のみならず協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」(※中★6)に変更しました。また、平成26年度調査の「先生は、あなたのおいところを認めてくれていると思いますか」の質問を、「自分には、よいところがありますか」(※中★4)に変更しました。

## ○「学ぶ力向上 滋賀プラン」の6つの視点での結果

本県では、市町教育委員会や学校とともに、「学ぶ力向上 滋賀プラン」の6つの視点をもとにして、学ぶ力向上の取組を進めてきた。調査の結果では、昨年度の本県の状況に比べて「繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す」ことや「授業を改善する」ことなど、小・中学校ともに多くの項目で改善が進んでいることが示された。

一方で、全国平均との比較においては、下回っている視点もあり、今後も、引き続き改善に向けた取組が必要である。

各視点については、以下のとおりである。

(○…よい傾向が見られた質問項目、△…さらに改善が必要な質問項目)

### 一人ひとりの学ぶ力を高める

この視点は、子どもたち自身が、自らの学び方を身に付け、一人ひとりの学ぶ力を高めることをめざすものである。そのためには、新しいことや難しいことに、失敗を恐れなくて挑戦したり、人の役に立つ人間になりたいという気持ちを高めたりすることが大切である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と回答した児童や生徒が増加
- 「友達の前で、自分の考えや意見を発表することは得意」と回答した児童や生徒が増加

### 繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す

この視点は、子どもたち自身が、基礎的・基本的な内容などに繰り返し意欲的に取り組み、達成感や自己有用感をもつことをめざすものである。そのためには、子どもたちが、最後までやり遂げたり、努力したりしたことについて認め、本来、子どもたちがもっている可能性を引き出すことが大切である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」と回答した児童生徒が減少
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童が増加

### 生活の中で学ぶ力をつける

この視点は、子どもたち自身が、これまで学んだことをもとにして、家族や友達と一緒に様々なことを体験するなど、実際の生活場面で活用することにより、思考力や判断力、表現力を高め、いく力を身に付けることをめざすものである。そのためには、学級の友達と協力して何かをやり遂げたり、家の人と学校の出来事について話したりすることが大切である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童や生徒が増加
- △「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」と回答した児童生徒が減少

### 授業を改善する

この視点は、授業改善を進め、子どもたち自身が学習の目標を自覚し、成果を確かめる学習過程を仕組むことにより学びの質を高め、学んだことを次の学習や他の場面で役立てることができるようになることをめざすものである。そのためには、子どもたちが意見や考えを交流する機会を多くもつとともに、子どもたち自身が「何ができるようになればいいのか」を自覚したり、振り返りで「分かったこと」「できたこと」「もっと学びたいこと」などを書き、学びの成果に満足感や成就感をもったりすることが必要である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「授業では自分の考えを発表する機会が与えられていた」と回答した児童や生徒が増加
- 「授業では最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した児童や生徒が増加

### 放課後や家での時間の使い方を考える

この視点は、学校と家庭・地域との連携を図り、子どもたちの主体的な学びの姿を実現していくため、自分で計画し、学習習慣をつくっていくことをめざすものである。そのためには、睡眠時間や携帯電話の使用時間など、自分自身で生活習慣をつくり、学校での学習に生かせる家庭学習の方法が身に付くようにしていくことが大切である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童や生徒が増加
- 「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童や生徒が増加
- △「普段（月～金曜日）、1日当たり、1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている」と回答した児童や生徒が増加

### 県全体で子どもの力を伸ばす

この視点は、学校だけでなく地域の中で、子どもたちの学ぶ力をのばすことをめざすものである。そのためには、子どもたち自身が、地域や社会に関心をもち、よりよくするために、何をすべきかを考え、進んで活動できる力や、人の気持ちがわかる人間になりたいという心情を、学校や保護者、地域が一体となって育てていくことが大切である。

滋賀県の昨年度との比較において、

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒が増加
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童や生徒が増加

### ○「今後の改善の方向性」について

今後の「学ぶ力の向上」に向けては、本年度の全国学力・学習状況調査の分析を進め、総合教育会議などの意見をもとに、具体的かつ有効性のある改善策を作成していく予定だが、その方向性については次のことがポイントになると考える。

- 子どもたちが主体的に自分の考えを話し、意欲的に活動することができるように授業を構想し、一人ひとりの学ぶ力を高めること
- 日常的に「書くこと」の経験を多くすることや、少人数でのきめ細かな指導による基礎・基本の定着を図ることにより、子どもたちの繰り返し努力したことを認め、成果を評価し、能力や可能性を引き出すこと
- 学習を含め様々な場面で、話し合ったことをもとに活動を行い、やり遂げたという満足感や充実感を味わうことにより生活の中で学ぶ力をつけること
- 学習で「今日は何がわかればよいのか」という授業のめあてを意識させて、主体的に取り組ませたり、学習の振り返りでは、自らの成果を確認したりするなど、具体的で明確な授業の改善について、積極的な取組を進めていくこと
- 睡眠や携帯電話・スマートフォンなどを使う時間を考えるなど、子ども自身が生活を見直し、その日の家庭学習に目標をもって計画的に進められるようにするなど、学ぶことに関心を高め、意欲をもつ取組を進めること
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答している児童生徒が全国平均より多いことから、保護者・地域と一体になり、子どもたちが、地域の中で主体的に活動する場を大切に、地域や社会に関して考え、積極的に活動できるようにすること

# 大きく改善した都道府県の取組例

	大きく伸びた要因	授業改善の取組内容	平均正答率の合計ののび※		
			小	中	計
石川県	<p>「石川学びの指針12か条」による中長期的な指針の活用 3つの指針 1：活用力を高める授業づくり 2：学力・学習を支える基礎づくり 3：指導改善を進める体制づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の組織の見直し</li> <li>改善に向けたロードマップの作成（各校）</li> </ul>	4.8	0.0	4.8
三重県	<p>①小学校国語の授業改善（調査官の招聘、研修会全4回実施） ②南部地域に指導主事3名が常駐し、そこを拠点に学校訪問 ③県独自の学力テスト（みえスタディ・チェック）実施 ④学力向上緊急対策チーム会議（月1回開催）</p> <p>①について 平成24年度に学力向上推進室を設置し、県民運動も行ってきたが、昨年4月の結果では3年連続全国平均を下回る。全てを一気に改善するのは無理なので、最も課題の多かった「小学校国語の授業改善」に絞って取り組んだ。その結果、国語日が大きく伸びた。小学校の教員は、全教科を教えることから国語の授業改善が、算数や理科の伸びに及ぶ結果につながった。</p> <p>②について 三重県は南北に長く、交通が不便で指導主事の派遣が困難であったが、尾鷲駐在の指導主事を置くことで学校訪問が可能になる。指導主事が全小学校を訪問。校長から状況の聞き取りを行い、現場の声を聞きながら助言した。</p> <p>③について 昨年度から県独自の学力テストを実施。昨年は全国学力調査と同日に小4・中1で実施。2月には小5・中2で実施。今年度は、10月に小4・小5・中1・中2を実施予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校国語の授業改善</li> </ul> <p>文部科学省の調査官を招聘した研修会を全4回実施した。4回とも全小学校257校から1名参加。2回は調査官の講演を伴う研修会。2回は公開授業を伴う研修会。他にも県の研修を行っており、研修を深めたことにより教員の授業力が上がったと考えている。</p>	7.0	1.8	8.8
和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> <li>全庁体制での学力向上に向けた学力向上対策本部会議を開催（義務教育課、総務課、生涯学習課） 学力向上短期計画を作成</li> <li>各学校では、全校体制で授業を改善 11月～学年調査までの学力検証サイクルの改善を全学校に指示 「授業の基礎・基本3か条」を徹底</li> <li>県独自の到達度調査（公表・分析）を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての学校・学級・授業において実践する授業づくり（基礎・基本3か条に基づいて実践）</li> </ul>	8.3	2.3	10.6
徳島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>地道に取り組み、現場に訴える</li> <li>校長会で危機感をもたせる</li> </ul> <p>平成19年度から活用の力を伸ばすことが課題であった。それに対して、地道に取り組んできた。学校訪問を始めとして学校現場に訴えてきた成果があったのではないと思う。校長会では、危機感をもって取り組んでもらうようずいぶん訴えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動の充実</li> </ul> <p>→とりわけ、「読む」「書く」「話す」に力を入れている</p>	7.2	-0.4	6.8
高知県	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営の計画を提出</li> <li>学力向上にむけた指定校を設けて学校訪問</li> <li>日問題を児童生徒に配布して意識の高揚を図る</li> <li>評価問題の使い方について説明</li> <li>小学校で県独自の調査を実施 資料などの作成は、センターで行っている。</li> </ul> <p>すぐに成果は出てこないと思うが、継続して行うこと。</p> <p>全体的な捉えでしか言えないが、これまでやってきたことが成果として現れたのではないが、学校が組織的に動くよう働きかけたり、学習プリントを配布したり、小学校に限っては県独自の調査を実施したりした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業づくりのポイント」の提示</li> <li>若手を中心に育成</li> </ul> <p>学校訪問時に「授業づくりのポイント」を教員に意識してもらおうとしている。計8点あり、授業中の内容が5点、日常的な内容が3点あり、ホームページ上にも示している。</p>	4.6	1.1	5.7
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年11月より、県内の小・中学校を学力向上推進室の指導主事12名が訪問し、授業改善に向けて指導を行ったことが効果的だった。年間のべ300校を訪問した。学校によっては2～3回訪問した学校もあった。授業参観し、授業づくりについての意見交換を行い、ていねいに指導を行った。</li> <li>昨年7月より、Webシステムを導入した。主に算数・数学で、単元が終わるごとに評価問題に取り組み、各学校が結果データを入力する方式である。</li> <li>何よりも校長のリーダーシップが影響している。毎年9月に県庁で小中合同で校長会を開いている。校長会で、問題提起を行ったことがうねりを生み出し、現状につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書とノートづくりに重点化し、授業改善を徹底した。特に、ノートづくりに力を入れたので、結果的に教師の発問が質的に向上し、ねらいを明確にした授業づくりにつながった。</li> <li>振り返り活動はまだ徹底できていない。</li> </ul>	3.6	2.6	6.2

※各都道府県での国、算・数の平均正答率の合計と全国平均との差を求め、平成26年度からののびを表している。

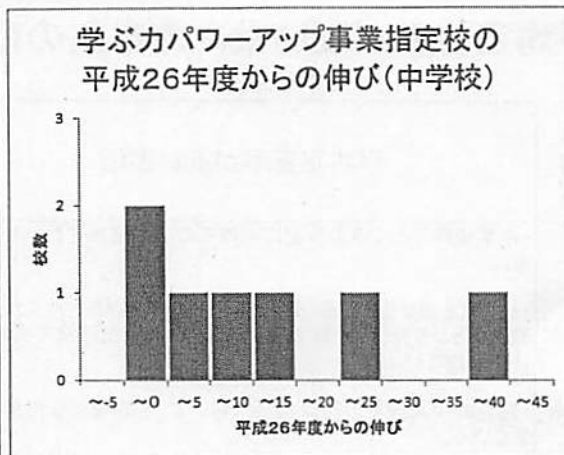
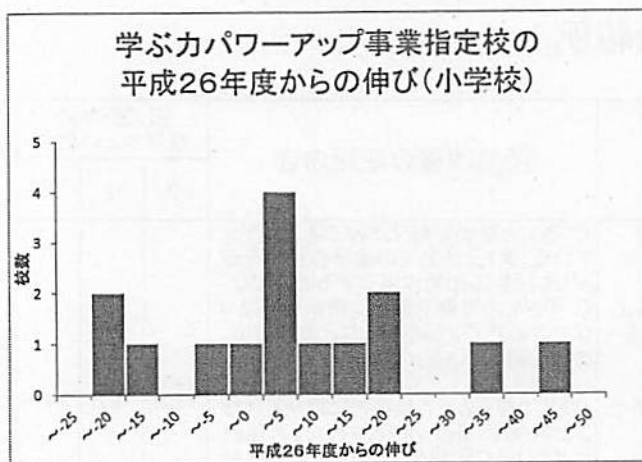


## 平均正答率が高い県内の市町の取組例

市町名	平均正答率が高い要因	授業改善の取組内容	国、算・数の 県平均との差※		
			小	中	計
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区ごとに学力向上に向けての小中連携を行っている。</li> <li>・めあてと振り返りが各学校で定着してきている。学ぶ力向上滋養プランを受けて、校長会、教頭会、教務主任会で実践を呼びかけている。</li> <li>・独自の少人数での指導編成において、きめ細かな指導ができてきている。</li> <li>・中学校は、差が小さくなってきた。職員が危機感をもって取り組んでいる。県指定の事業校の先生の意識が特に向上したこと、少人数加配がついたことも一つの要因である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてと振り返りをどのクラスでも行っている。また、めあての提示の仕方を必ずしも授業の始めに提示するのではなく、子どもの思考や学びに向かうタイミングでのめあてを提示するなどの指導の工夫を図っている。</li> <li>・授業で書く活動を積極的に取り入れたことで、無回答率が改善された。具体的にどのような取組をしていたかはこれから確認し、分析する。</li> </ul>	17.2	6.8	24.0
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年前から業者委託の総合学力調査を小5(国、算、生活実態調査)と中2(国、数、生活実態調査)で実施しており、結果を指導に生かしている。</li> <li>・総合学力調査の生活実態調査は、業者とは別で独自で20項目の質問を作成。</li> <li>・例年、管理職研修を実施し、各校の取組を交流している。今年度は2回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学力調査では、上位からABCDのカテゴリーに分かれて分布が出るので、各校が分布の状況に合わせて焦点化した指導を行っている。</li> <li>・放課後や長期休業中に熱心に補習を行っている中学校が多い。</li> </ul>	3.7	10.9	14.6
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校は生活面・生徒指導面で落ち筋している。</li> <li>・ICTの導入(昨年度)により、資料提示やノート指導の点で効果があった。</li> <li>・特別な支援が必要な子どもに対しての対応が充実しており、学年に一人担当教員が配置されている。</li> <li>・図書館教育の充実、業者委託により、週1から週1.5日図書館司書の配置をしている。</li> <li>・先進校を視察し、全体研修会で報告している。</li> <li>H26:福井県、H27秋田県</li> <li>・ひと・もの・お金に恵まれ、地域の支援にも恵まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模も小さいので、県で取り組まれている事業を受けて取り組んでいる。(アプローチ・ステップアップ事業など)</li> <li>・めあて・見通しをもつ・振り返りなど県が繰り返し指導してくださっていることをみんなで取り組もうとしている。</li> </ul>	8.7	14.9	23.6

※各市町での国、算・数の平均正答率の合計と県平均との差を求めたもの

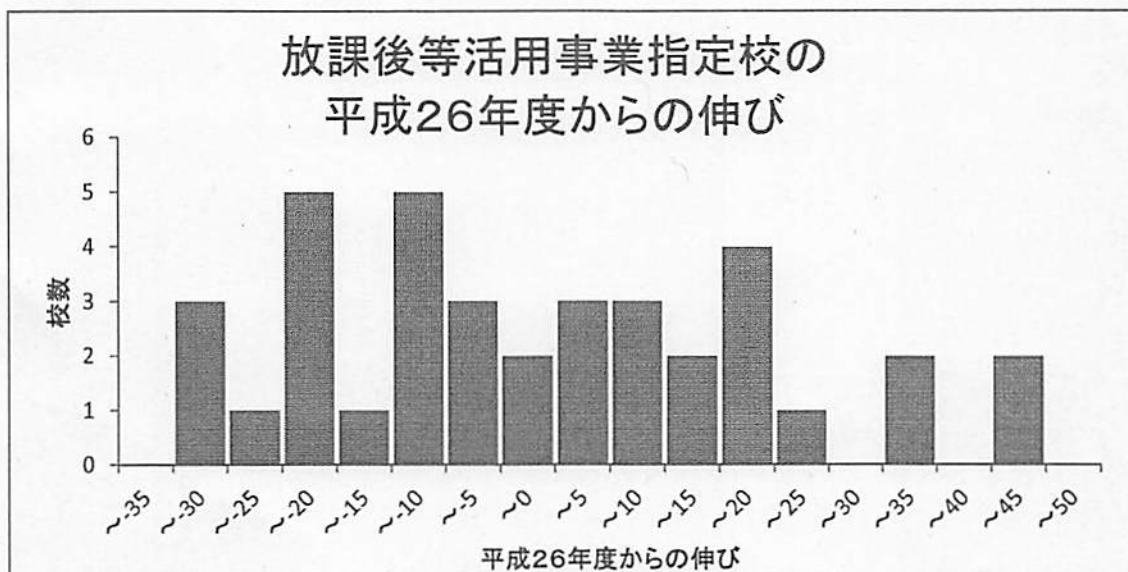
# 学ぶカパワーアップ事業指定校の状況



学校名	結果が上向いた要因
A小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果の状況を数値よりもグラフ化したことで、本校の児童の学ぶ力の低さを実感できた。このことに教員全体が危機感を抱き、授業改善の必要性の意識が高まった。また、授業だけでなく、家庭学習をはじめとする学習習慣の確立の必要性も感じた。</li> <li>・学習状況調査の生徒質問紙において「授業でめあて、ふり返りを行っているか。」という質問に、「している」と回答した児童が増えた。授業改善について、教員の意識と児童の意識が一致したことも学ぶ力向上につながった。</li> <li>・子どもの自尊感情を高めることも大切にしている。人権教育課の礎（いしずえ）事業の指定も受け、自尊感情の向上に努めていることも学ぶ力向上につながっていると思われる。</li> </ul>
B小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長自ら、自尊感情を高める取り組みとして「努力の壺100」を始めた。努力をして校長室に行くと校長先生が壺に色を塗ってくれる。他にも「学校の自慢づくり」など、児童の自尊感情を高める取組を行った結果、学校がとても落ち着いた。すると、基本的な生活習慣が整い、学習規律が改善された。その状況で、パワーアップ事業により、少人数のきめ細やかな指導が功を奏して、今回の成果につながったのではないかと考える。</li> <li>・家庭学習の取組が十分でないので、その課題の克服に取り組みたい。</li> </ul>
C中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーアップの加配（IT、少人数）による授業の効果が大きい。</li> <li>・「学び直しプリント」を計画的に活用した。</li> <li>・アプローチ事業での取組も大きい。</li> <li>・昨年度から、週1回「〇〇タイム」として、新聞のコラムを取り上げ、思い（感想・意見）を書く活動を継続して行っている。この取組で書くことへの抵抗感が減り、無回答の生徒が減った。</li> <li>・学校全体として教員が授業改善に前向きである。</li> </ul>
D中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチ事業で活用する力がついてきた。</li> <li>・授業改善の取組が、教員全体に浸透してきた。</li> <li>・パワーアップ事業で、基礎基本が定着してきた。</li> <li>・中学校区で、小中が連携し、改善の視点をつくり、取り組めた。</li> <li>・教務が中心となって、データをよく分析し、職員に説明した。</li> </ul>

学校名	結果が伸びなかった要因
E小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年、昨年と生徒指導上の課題が大きく、学習規律を徹底しようとするなど様々な取組を行っているが、児童に指導が入らない状況となっているのが要因と考えられる。</li> </ul>
F小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体は、他校に負けなくらいに、学習環境づくりの工夫をしたり、本を読ませる取り組みをしたりするなど、頑張っている状況。</li> <li>・子どもの家庭状況も要因の一つと考えられる。</li> </ul>

## 放課後等活用事業指定校の状況



学校名	結果が上向いた要因
A小	・学生支援員が放課後にプリントを印刷し、朝学習で取り組み、放課後に丸付けとコメントを加えたプリントを返してくれる。ガッテンプリントや言の葉プリントなど、とにかく、多くのプリントをやらせた。支援員のコメントが励ましとなり、子どもたちはそれが嬉しくてプリントに熱心に取り組んだ。
B小	・放課後活用については、クラブが終わった時間をうまく活用できた。学年の下校時間をずらすなどして、待ち時間をうまく工夫して放課後の時間を生み出せるようにしたい。 ・教師が昨年は「何とかしなければならぬ」、今年は「何とかしたい」という気持ちになって、授業改善に取り組んだことが要因と思う。
C小	・県の学び直しプリントを、4・5・6年で宿題、朝学習、隙間の時間で全員に配布し活用した。 ・希望制の1、2年生の放課後補充学習を実施し、支援員等により習熟度に合わせた支援を行った。 ・放課後等活用事業支援員が県のステップアッププリントとつまずき診断テストを印刷したため、十分に活用することができた。
D小	普段の学習の中で、プリントやテスト等に空欄があれば、教師がそこに朱書きでコメントを入れ、指導している。

学校名	結果が伸びなかった要因
E小	・この事業を受けたが、今年度の調査に「間に合わなかった」という感じがする。 ・子どもたちが、中学年の時に生活習慣や学習規律が乱れていたのだが、それが崩れたままになっていた。3年生ぐらいからの早い段階から手を打って、学習環境の整備に取り組みたい。 ・集団下校の関係で、放課後の活用がなかなか困難である。給食待ちの時間や昼休みなど、ちょっとした短時間を利用して、学習の支援が行えると良いと考える。
F小	・今年の6年生は生徒指導上課題が多く、小学3年生から課題として受け止めてきたので、予想された結果であった。先生方はねばり強く指導してきたが、無回答もあり、結果がふるわなかった。放課後も行ったが、児童が二極化しており、来てほしい児童が参加していない状況。 ・夏休みの後半の4日間、図書館で退職された地域の教員12名にボランティアに来てもらい、補充学習教室を開いた。地域の教員をボランティアにすることで、児童にとってもよかった。